

健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 自己評価シート

プラン名	よみがえれ銘柄材産地「東濃松の里・美濃白川」森林再活性化プラン			作成日	21 年	11 月	10 日
実施方法	☒ 単独 ☐ JV	所属	白川町森林組合	記入者	澤田卓朗		
プロジェクトの対象・目的・内容	対象（誰を、何を）		目的（どういう状態にしたいのか）				
	白川町黒川地内の大規模所有者森林及び周辺を対象にモデル団地を設定し、保育間伐から利用間伐へのシフトを図ることで、安定的な森林経営及び地域材生産の基礎をつくる。		白川町は地域銘柄材「東濃松」の主要産地であるが、これまで森林組合としては素材生産をほとんど行っていなかった。今回森林組合が森林づくりプロジェクトに取り組むことで、間伐が遅れている地域を含めた町内全体に対し団地集約化の流れをつくるとともに、地域材の安定的な生産にむすびつけることで「東濃松の里・美濃白川」の復興に向けた契機としたい。				
	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）						
	プロジェクト当初の2ヵ年間は大規模所有者の森林および隣接森林からなる団地において、作業路等の高密路網整備と高性能林業機械の導入により新しい作業システムを定着させ利用間伐を推進する。3年目からはこれらの実績により白川町内の森林所有者を対象に現地説明会を開催して団地集約化を広げる。また作業のさらなる効率化のため作業システム定着状況に応じ、新たな高性能林業機械をリース等で導入し作業システム更新の検討を行う。一方で搬出材は地域銘柄材としてのみならず小径木等を含めて、東濃ヒノキ白川市場を核とした流通の多様化を図り「東濃松の里・美濃白川」の復興をめざす。						
事業期間	平成 20 年度 ～ 平成 24 年度（ 5 年間）						
事業費 / 年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成20年度決算） ※職員人件費を除く						
	森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他	
予算執行額（千円）	3,846.0	1,680.0	18,404.0			2,800.0	
財源内訳	国・県費	3,345.0	1,200.0	10,756.0			2,800.0
	市町村費	501.0	480.0	7,648.0			0.0
	一般財源	0.0	0.0	0.0			0.0
	その他	0.0	0.0	0.0			0.0
事業実績	成果指標		単位	20年度		21年度	
				計画	実績	計画	進捗
	①	施業集約化	ha	33.0	44.0	37.0	15.0
	②	植栽	ha	0.0	0.0	0.0	0.0
	③	下刈・除伐	ha	1.0	0.7	1.0	1.0
	④	切捨間伐	ha	1.0	13.1	2.0	2.0
	⑤	利用間伐	ha	9.0	11.2	10.0	2.0
	⑥	主伐	ha	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑦	作業道開設（延長） w= / 3.0 m	m	/ 2,000	/ 2,036	/ 3,000	/ 1,295
	⑧	作業道開設（開設コスト） w= / 3.0 m	円/m	/ 1,400	/ 1,500	/ 2,000	/ 2,000
	⑨	木材生産量（モデル団地内）	m³	800.0	881.9	1,500.0	240.0
	⑩	木材生産量（モデル団地外）	m³	200.0	400.0	200.0	0.0
	⑪	木材生産性	m³/人日	2.8	2.9	3.2	4.1
	⑫	木材生産コスト（伐採～積込まで）	円/m³	12,000.0	12,000.0	10,000.0	0.0
	⑬	高性能林業機械導入	台	2.0	2.0	0.0	0.0
	⑭	伐採専門チーム養成	チーム	1.0	1.0	0.0	0.0
	⑮	現地研修会・見学会	回	2.0	2.0	2.0	1.0
	⑯	施業集約化説明会	回	2.0	2.0	2.0	1.0
	⑰	路網整備加速化事業（W=3.6m）	m	0	0	650	0
	⑱	施業集約化・供給情報集積事業	回	1.0	1.0	1.0	1.0
	⑲	高性能林業機械オペレーター養成研修	回	1.0	1.0	1.0	1.0
	⑳	県森連林業機械リース事業（低コスト林業推進支援事業）	回	1.0	1.0	1.0	1.0
	(21)						
	(22)						
	(23)						
	(24)						
(25)							
補足説明							

1	達成度	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☒ 実施されている	☐ 一部未実施	☐ 実施されなかった
		当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☒ 一部達成した	☐ 達成しなかった
		進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☐ 実施されている	☐ 一部未実施	☒ 実施されなかった
	補足説明	平成19年度に行った実証事業（高性能林業機械をレンタルし、低コスト作業道を開設し利用間伐を行う）の成果もあり、初年度は、目標どおり達成された。しかしながら、所有者へ少しでも多く還元するためには売値単価を上昇させる工夫が必要であり、優良材の選別を効率的に行い販売経路の多様化に対応することが急務であると考えられる。今後は森林組合に隣接する木材市場との協議を増やし創意工夫を行いたい。			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
2	成果	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		木材生産の拡大が図られているか	☐ 図られている	☒ 一部図られている	☐ 図られていない
		森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	☐ 大いに確認できる	☒ 一部確認できる	☐ 確認できない
		山地災害発生を抑止する工夫ができたか	☐ 工夫できた	☒ 一部工夫できた	☐ 工夫できなかった
	補足説明	モデル団地内では、8 齢級以上の森林が約44%を占めることから利用間伐が主体となる。このため効率的に素材生産ができるように林内路網整備計画（林内路網密度の整備目標を120m/haとし、平均集材距離が40m/haとなるよう、22の新規路線を計画し、総延長21.50kmを5年間で新設する。）と密接に連動させた施業を展開する必要がある。			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
3	効率性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		コストや業務量に見合った成果が得られたか	☐ 得られた	☒ 一部得られた	☐ 得られていない
		効率的な実施体制で推進されているか	☐ 推進された	☒ 概ね推進できた	☐ 推進できていない
		積極的に民間活力を活用しているか	☐ 活用できた	☐ 一部活用できた	☒ 活用できなかった
	補足説明	業務のすべてに関して森林組合主体で行うことを重視すると効率が悪い部分も発生するため、今後は、民間事業者や建設業者との協力も含めて検討する必要がある。また当該森プロで新規導入した作業システムに関する更なる向上と定着を図りつつ、町内への団地化の広がりに対応するため、現行作業システムの更新等に関する議論を始めたい。			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
4	妥当性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☐ 反映している	☒ 一部反映している	☐ 反映していない
		プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか	☐ 適当であった	☒ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった
		期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☐ 養成された	☒ 一部養成された	☐ 養成されていない
	補足説明	今まで団地・集約化（高密度路網と高性能林業機械による作業の効率化）に関して啓発不足もあったが、当該事業が進むにつれてモデル団地周辺からの事業化要望が増えたため、モデル団地の区域変更も視野に入れて事業を展開する。			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			

【 自 己 評 価 】			
配点	3 点	2 点	1 点
関係者（住民・所有者・従事者）の満足度は向上したか	☒ 向上した	☐ 一部向上した	☐ 向上しなかった
選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	☐ 対応できた	☒ 一部対応できた	☐ 対応できなかった
上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☒ 余地がある	☐ 一部余地がある	☐ 余地がない
5 発展性	当該モデル団地での実績を基にした普及啓発が重要であると位置づけ、森林所有者・地域住民に対して積極的に働きかけることが、組合員との信頼関係の強化につながり、地域森林管理・経営の担い手として今後の組合運営を左右する重要な課題となると考える。		
【 委 員 評 価 】			
コメント	・別添フォローアップシート参照		

自 己 評 価（集計）				
評価集計	1 達成度	2 成果	3 効率性	
	6	6	5	
	4 妥当性	5 発展性	合計点	
	6	8	31	
	総合評価	B		
総合評価：A＝現状維持 B＝充実・拡大 C＝要改善 （配点区分：A＝4 5～3 6点 B＝3 5～2 6点 C＝2 5～1 5点）				
補足コメント	植栽保育型の森林組合から脱却すべく取り組んだプロジェクト事業であるが、1年半が経過し集約化のノウハウは確実に習得しつつある反面、作業効率に関しては課題を残している。今後は改善点を積み上げ効率性の向上を図りたい。また引き続き団地集約化を柱とした低コスト林業の推進を図るには、森林組合の組織としても更なる意識改革の必要性を感じており、森林所有者から信頼される組合になるよう努力を重ねたい。			

フォローアップ委員会による総評			
推奨方針（案）	☒ 現状維持	☐ 充実・拡大	☐ 要改善
コメント	・別添フォローアップシート参照		